

# 令和3年度 小・中・高等学校を通じた 英語教育強化事業

## 小・中・高を通じた英語教育強化事業

佐賀県の現状

- ・高3で英語技能資格を取得している生徒の割合は高いが、⇒ 二極化取得していない生徒の英語力は全国最下位レベル
  - ↳ 個別の教員の主観により判断＝生徒の英語力を図る指標がない
- ・英語力を図る指標がないため、進級や進学時に客観的な学力が共有できず、指導に継続性がない

全県下で、**生徒の英語力の規準＝佐賀県CAN-DOリスト**を設定し、規準に応じた学習が県内どの学校においても継続できる仕組みを作る

### 目標を見える化する

- ・小・中・高での各段階における **目標・到達度の明確化・共有**
- ・CAN-DOリスト作成
- ・リストに基づいた指導計画の策定

小5	小6	中1	～	高2	高3
A	A	A	A	A	A
B	B	B	B	B	B
～	～	～	～	～	～
F	F	F	F	F	F
G	G	G	G	G	G

### 授業を変える

- ・小中校の枠を超えた研究
- ・CAN-DOリストの利用
- ・客観的データに基づく評価の確立と授業改革



デジタル教材を活用  
(授業&各自)

### ICTの強みを活かす

- ・個別最適化された反復学習
- ・いつでもどこでも繰り返し学習する
- ・児童生徒の弱点を明確にとらえる
- ・弱点・課題に応じた学習でステップアップ
- ・学力の分析を基に授業改善可能
- ・小・中・高での到達度を客観的に測定・蓄積・共有



※測定結果は高校3年まで引継

個別最適化の学びを可能にすることで、英語力の強化を図る

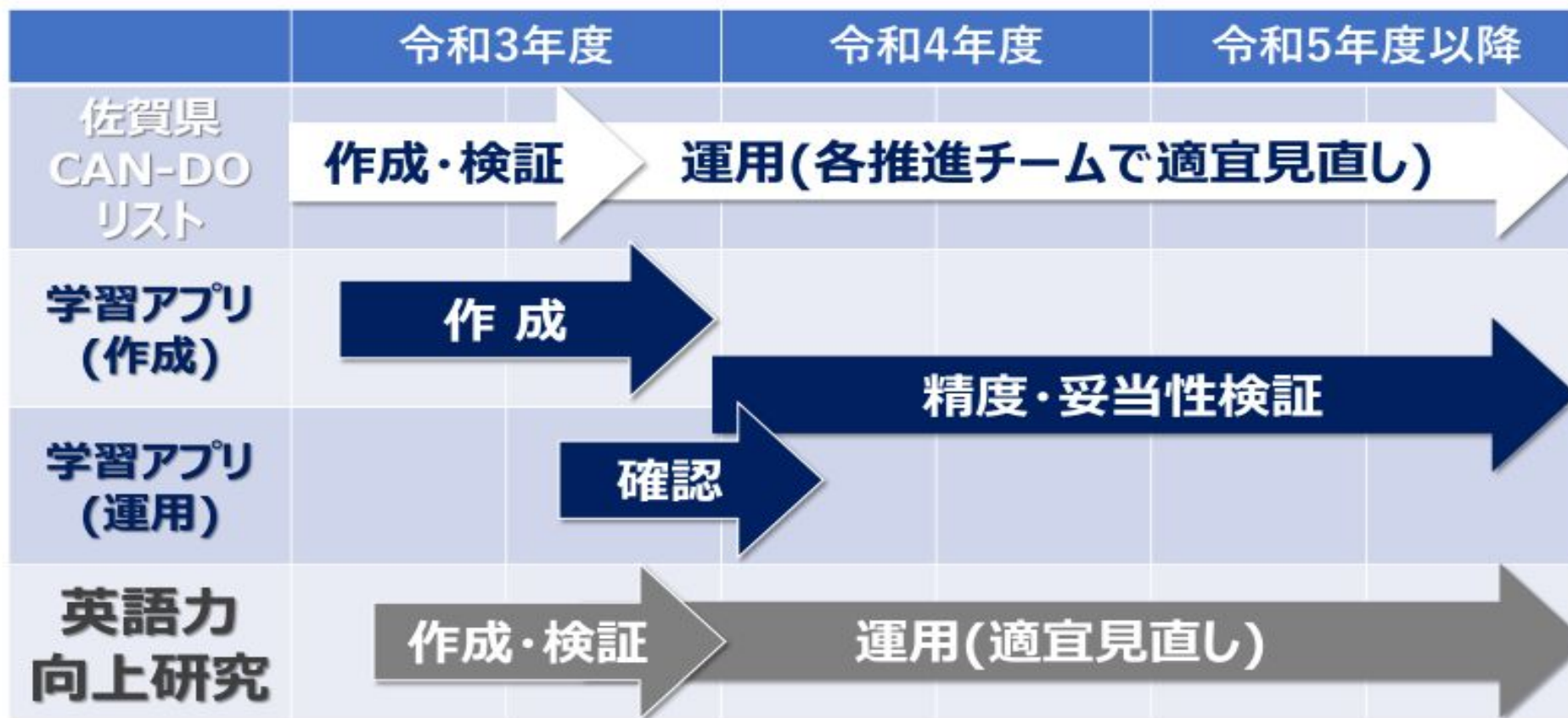
佐賀県の児童生徒の英語力が小・中・高継続して高まっていく

## 佐賀県英語学習デジタル教材の具体的な機能

対応するシステム	全システム (Windows, Chrome, iOS, Android)
ユーザー数	児童生徒 約8万人      教職員 約8千人
求める機能	「読む」「書く」「聞く」「話す」に対応 CSV形式でのデータ入力・出力 英語レベルを判定 (20問・自動採点・即時判定) 個別最適化の学びに対応
家庭学習に活用	長期休暇中はゲーム的な機能を限定公開
分析に活用	よく使うリンク集などの分析

# PROJECT E

## 佐賀県が目指す英語教育スケジュール



## 小・中・高を通じた英語教育強化事業推進委員会

CAN-DOリストの作成

CAN-DOリスト及びデジタル教材を活用した授業及び学習評価に関する研究



# PROJECT E

## 小・中・高を通じた英語教育強化事業推進委員会

### CAN-DOリストの作成

Can-doリスト (小・中・高)

CEFR	レベル	Can-doリスト (小・中・高)					Can-doリスト (補足資料)				
		聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと	聞くこと	読むこと	話すこと [やり取り]	話すこと [発表]	書くこと
CEFR B2	21	社会性の高い話題について、自然な速さで聞き取り、講義や複数人の議論を正確に理解することができる。	社会性の高い話題を扱った長めの文章を読み、その概要だけでなく、細かい部分にも注意を払って理解することができる。	社会性の高い話題について、多様な語句や文法を用いて、教師の発言やクラスメートの発表に対して、準備することなくその場で発言することができる。	社会性の高い話題について、多様な語句や文法を用いて、自分の意見、調べた情報、論理の構成を展開工夫して流暢に話し、自分の意見の論拠を示し、パートナーと議論することができる。						
	20	社会性の高い話題について、自然な速さで、母語話者同士の会話やニュースやラジオの情報を詳細に理解することができる。	社会性の高い話題を扱った長めの辞書や辞書を使用した読み、理解することができる。								
	19	自分の関心のある社会的な話題について、標準的な速さであれば、ニュースやラジオの要点を理解することができる。	自分の関心のある社会的な話題について、短めの文章を辞書を使わずに理解することができる。								
	18	日常的な話題について、標準的な速さで聞き取り、何度か聞き取り、比較的長い対話や議論の要点を理解することができる。	自分の関心のある社会的な話題について、短めの文章を辞書などを使い、その要点を理解することができる。								
			CEFR B2	<b>話題</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な問題</li> <li>インタビュー</li> <li>ニュース</li> <li>ラジオ番組</li> <li>テレビ番組</li> <li>インターネット上の動画</li> <li>社会問題</li> <li>複数のニュースや講演</li> </ul>	<b>読むこと</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>日常的な問題</li> <li>新聞記事</li> <li>物語</li> <li>インターネット上の動画</li> <li>社会問題</li> <li>複数のニュースや講演</li> </ul>	<b>話すこと [やり取り]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチ (質疑応答)</li> <li>プレゼンテーション (質疑応答)</li> <li>ディスカッション</li> <li>デベート</li> </ul>	<b>話すこと [発表]</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>スピーチ</li> <li>プレゼンテーション</li> </ul>	<b>書くこと</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>複数 段落の文章の詳しい説明を含む文章</li> </ul>	①分野 (社会問題、時事問題、一般、専門、日常、興味、経験、抽象的、趣味、希望、家族、スポーツ、食べ物、個人的なトピック、挨拶) ②準備 支援 (状況に応じた) ③形態 (質問、意見、要点、説明、依頼、基本的な情報、自分の要求、論拠を並べて、自分の主張) ④程度 (正確、流暢、簡単、基本的な語や言い回し、単純に回答、なじみのある表現、基礎的な文)		
				<b>言語活動の内容</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>目的に応じて必要な情報「聞き取る」「読み取る」。</li> <li>話の展開に注意する。</li> <li>聞き取りの内容について、質疑応答したり意見や感想を伝える。</li> <li>生徒自身「目標」達成しているか、対応できるか判断し、自力「目標」達成できる。</li> <li>自力「目標」達成できない場合は、必要に応じて他社「求む」協働で取り組む。</li> </ul>	<b>言葉の様相</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>支援をほとんど活用しない</li> </ul>						

# 小・中・高を通じた英語教育強化事業推進委員会 公開授業

